

■素木しづ 小説家。新進作家トップで登場、樋口一葉再来の評価もあったが、一葉同様早世した。
しらきしず
日清戦争終・1895＝ 北海道札幌に生れる。小学校校長素木舩雲・由幾の三女。本名志づ。しづ子とも書く。

Bushidou・・1899＝ 4歳：父が死去。

日露戦争始・1904＝ 9歳：
日露戦争終・1905＝10歳：

韓国反日暴動1907＝12歳：_札幌高等女学校に入学。森田たまと同級。
_在学中から{少女世界}の常連投稿者となる。

韓国併合・・1910＝15歳：_結核性関節炎となり、
大逆事件判決1911＝16歳：卒業。
明治天皇没・1912＝17歳：一家で上京後，_右足を切断。病後は，作歌・作詩・洋画に気持をまぎらす。やがて作家への道を決意，
大正政変・・1913＝18歳：*森田たまに遅れて森田草平の門に入る。自己の運命をめぐる苦悩と悲哀を書いた「松葉杖をつく女」，
第一次大戦始1914＝19歳：*その受難の苦しみを自浄していく回生の信条を書いた「三十三の死」を{新小説}に発表して好評を得，新進作家のトップと目される。伊豆大島に渡り，療養を兼ねて滞在。ここで北海道江別出身の画家上野山一清貢と知合い，かつて津田青楓に絵を学んでいたことから，
21ヶ条要求・1915＝20歳：*日比谷美術館で二人展を開き，親族の反対を押切って結婚。長女桜子を出産した。{新小説}{新潮}{早稲田文学}などに，次々と小説を発表したが，病気がちで実家とは義絶同然，上野山も無名の画家で，愛児に授乳もできないほどの貧苦の中，母性愛を主題とした作品「赤ちやんや」「悲しみの日より」「赤い着物」「たそがれの家の人々」などを次々と発表し，作家的地位を確立して行く。
ロシア革命・1917＝22歳：*自伝的長編小説「美しき牢獄」ほか10数編の短編を発表，樋口一葉の再来と評価されるが，結核が悪化し，
本格政党内閣1918＝23歳：芝白金の伝染病研究所付属病院で，_没した。
昭和45年「素木しづ作品集」が刊行された。